

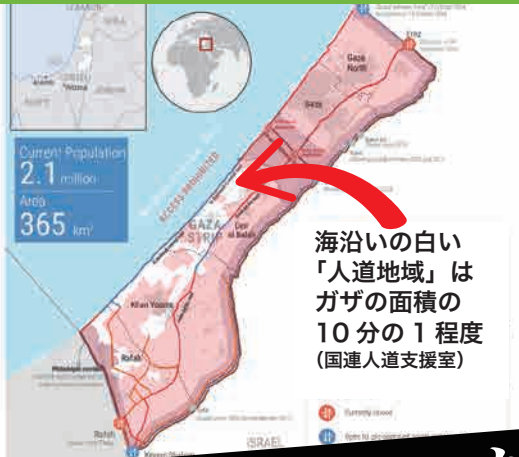
パレスチナ子どものキャンペーン

サラーム

平和

- P1
 - ・ガザの現状、現地職員のメッセージ
- P2-3
 - ・100万人が押し込められているガザ中部の状況
 - ・レバノンにも戦火が拡大
- P4
 - ・日本での活動の報告
 - ・メッセージ

ガザ危機 1年 皆様のご支援に心から感謝申し上げます。



(写真 WFP)

破壊と死臭のなかで人々は生きています

昨年10月以降、ガザでの人道状況はひどくなるばかりです。ガザ地区では、イスラエル軍によって「人道地域」とされた、面積の10分の1ほどの狭い土地に100万人以上が押し込められています。それ以外の地域では爆撃と地上軍の侵攻が進んでいて、10月19日には、ガザ北部で80人以上が犠牲になりました。

ガザ北部とガザ市内には40万から50万人が今も残っているといわれていますが、イスラエル軍から「退避命令」が出されても、すでに家や町の周りは軍隊に取り囲われていて、家の外に出ることさえ不可能だと人々は訴えています。当会の現地職員たちは元々ガザ北部の出身者が多く、親族がまだ北部に残留しているために緊迫した毎日を送っていますが、ガザの南北を分ける境界は国境ようになっていて、北部の人が南部に逃げることはほぼ不可能だといわれます。

ガザ市に残っている人たちも、家の周りには戦車が行き来しているため、様子を見ながらしか物資を探すための外出もできない状況です。

「ガザ危機1年を迎えた現地職員のメッセージ」



ハリールさん

365日以上、毎日人が殺されている。365日以上何も変わっていない。私たちは数字にされている。飢餓、悪臭、ゴミ、病気...いつまでこの状況が続くのか。人々は毎朝起きると、水や食料を探し回わる。水や食事を配るため、私たちも一生懸命頑張っているがとても足りない。停戦へのかすかな希望は打ち砕かれ、戦火は広がるばかり。親たちは病気の子どもを抱え、なすすべもない。それぞれの人の苦悩を語るには100年でも足りないだろう。いつ死ぬか分からない日々。私たちは数字ではない、人間なんだ。」



ワリードさん

北部には、叔父や従弟たちが残っています。彼らに聞くと、退避命令が出ても周りで爆撃が続き、家を出ることもできず。上空にはドローンが飛び回り人を攻撃する。深刻な水や食料不足があり、包囲され家を破壊され、もはや住める状態ではない。知人や友人が死亡したというニュースが連日伝えられ、親戚たちからのSOSも続くけれど、自分たちには何もできない。ガザ北部に人が踏みとどまってきたことが、いつかは北部に帰れるという希望となっていたのですが・・・」



ディールバラフから遠くないハンユニスの街の破壊状況は特にひどく死者数も多いといわれる

停戦を、今すぐに！

ガザの死者数
負傷者数

42,718人
100,282人

(2024年10月22日現在 OCHA)

レバノン、そして中東全体への戦火の拡大により、新たに数百万人の生命が危機に。ガザとパレスチナが忘れられるのではという不安、そして、ガザでは冬の雨季が始まっています